

第4次福知山市地域福祉計画 概要版

市民が「幸せを生きる」まち ふくちやま
～オレンジのまちづくり～

「地域福祉」とは

わたしたちは、一人きりで生きていくことはできません。一人ひとりがもっている価値観や個性を尊重し合い、支え、支えられながら誰もが生き生きと毎日を暮らすためには、住民や市がそれぞれでできることを考え、共によりよいまちづくりを進めていかなければなりません。一人ひとりが自分の住む地域のことを「自分のこと」と捉え、考え、行動する一つひとつの活動の積み重ねが地域福祉です。

地域福祉を推進しよう！

地域福祉活動の主役は地域で生活している住民一人ひとりです。住み慣れた地域で支え合い、助け合える地域社会を実現するために、地域住民、地域団体、ボランティア、福祉サービス事業者、行政などが連携・協働していくことが大切です。



第4次福知山市地域福祉計画の策定

「地域福祉計画」とは

本市の地域福祉の推進に関する事項を総合的にまとめ、複合化・多様化する地域課題に対して、すべての住民を対象とし、連携して取り組むべきことなどを明らかにし、将来の地域福祉のあるべき姿を関係者が共有する指針として策定するものです。

また、第4次福知山市地域福祉計画には重層的支援体制整備事業実施計画（※）を含めます。

※ 重層的支援体制整備事業実施計画 って何？

重層的支援体制整備事業を適切かつ効果的に実施するために策定する計画です。

「重層的支援体制整備事業」とは、これまでの介護、障害、子育て、生活困窮といった分野別の相談体制では解決に結びつかないような「暮らしの困りごと」に対応するため、まち全体で包括的な支援体制を整備する取組です。

地域福祉の受け手と担い手

地域福祉の受け手は、すべての住民です。すべての住民が人権を尊重され、生き生きと暮らすためには、さまざまな場面において地域とつながり、支え、支えられながら生活できる環境が必要です。

同時に、すべての住民は地域福祉の担い手でもあります。困っている人がいれば手助けをするという意識や行為が福祉の基本であり、またそうした行為がなければ、地域福祉は成り立ちません。

一人ひとりの住民が地域福祉を他人ごとではなく「自分ごと」と捉え、住民と市がそれぞれの役割と責任を果たし、協働することによって共に支え合うまちづくりを進めることが、本計画の大きな目標のひとつです。



計画の推進

福知山市社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画と車の両輪になって、共に連携して推進していきます。

計画の期間

2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間とします。

本市を取り巻く現状と課題

統計資料による現状

子どもは多く生まれているものの、人口減少・高齢化は進んでいます。1人世帯が増えていることは、1日誰とも話さない日が増える状況を生み出します。誰とも話さない日が続くと、孤独感や認知症リスクが高まります。

【人口の状況】

総人口に占める年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の割合は減少が続いている一方、高齢人口（65歳以上）の割合は年々増加しています。

【世帯の状況】

総世帯数は年々増加する一方で、1世帯当たりの人員は減少を続けています。2020（令和2）年時点では、市民の37%が単身世帯です。

【合計特殊出生率（※）】

2013（平成25）年から2017（平成29）年で2.02と、国や京都府よりも高い水準です。
※1人の女性が一生の間に生む子どもの数

【自殺死亡率】

2020（令和2）年以降、全国・京都府よりも高い状況です。

社会情勢

これまでの枠組みでは上手く解決できない課題が深刻化してきています。



【長引くコロナ禍】

地域行事の中止などで地域住民の交流機会が制限されています。

【課題の複合化】

ヤングケアラーや8050問題など、生活課題の複雑化がクローズアップされています。

アンケート調査からみえる状況

近所付き合いの希薄化、地域福祉についての関心や認識が低い状況があります。
相談ごとや困りごとがあっても、相談しないと答えた人が増えています。

【市民アンケート調査】

- ▷ 若い世代ほど近所付き合いは希薄ですが、どの年代においても、理想としては「今以上に近所との関係は深い方が良い」と回答しています。
- ▷ 「社会福祉協議会、地区福祉推進協議会、民生委員・児童委員による活動内容を知らない」人が多いです。
- ▷ 地域の手助け・助け合い活動やボランティア活動について、「誘いやきっかけがあれば参加したい」人が増えています。
- ▷ 地域の課題として「コロナなどによる地域行事の中断」「近所付き合いの希薄化」「災害への不安が大きい」「自治会役員や民生委員・児童委員などのなり手不足」が挙げられました。
- ▷ 心配ごとや困りごとは「どこにも相談しない」「相談できる人や場所はない」を選んだ人が増えました。
- ▷ 災害時に「頼りにする人はいない」と回答した人も増えています。

【市内の福祉施設を対象に行った社協によるアンケート調査】

- ▷ 地域の課題として「人材不足」が挙げられました。

基本理念・基本方針・基本目標

すべての人が地域で幸せに暮らし、共に支え合いながら福祉のまちづくりを進めることをめざし、本計画の基本理念を次のとおり定めます。

基本理念

市民が「幸せを生きる」まち ふくちやま
～オレンジのまちづくり～

基本方針

● 基本的人権と多様性の尊重

地域福祉を推進していくうえで最も重要な基本的人権と多様性の尊重を、本計画の基本に据えます。年齢や性別、障害の有無、出身や国籍などに関わりなくすべての人が個人として尊重され、社会の一員として活躍し、多様な価値観を認め合うような地域社会づくりを推進します。

● 住民参加と市民協働の促進

住民が共に支え合う「共助」に基づくまちづくりを進めるため、地域福祉の担い手の育成や、住民・事業者・ボランティア・NPO・行政などの協働による住民参加型の福祉体制をめざします。

● 地域共生社会の創出

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会をめざします。



地域福祉計画の取組の体系

3つの基本目標を定め、目標ごとに施策の方向性をまとめました。

基本理念

市民が「幸せを生きる」まちふくちやま ～オレンジのまちづくり～

基本方針

- 基本的人権と多様性の尊重（基本目標1・3）
- 住民参加と市民協働の促進（基本目標2・3）
- 地域共生社会の創出（基本目標1・2・3）

▼基本目標

▼施策の方向性

1 市民一人ひとりがお互いを尊重する

(1) 互いに自分らしさを尊重した人権文化の創造

①人権意識の醸成
②福祉教育の推進
③オレンジ運動の推進

(2) 地域でつながる

①地域でのつながりの構築

2 市民一人ひとりがまちづくりの担い手となる

(1) 協働・共創のまちづくりの推進

①住民組織などへの支援

(2) 多様な活動主体の協働の推進

①さまざまな支え手の連携・育成
②福知山公立大学などとの連携
③民生委員・児童委員との連携

3 誰一人取り残さない体制を整備する

(1) 重層的支援体制の整備

①相談体制・社会参加・地域づくり
②人権擁護の推進

(2) 生活環境の充実

①防災・防犯の充実
②持続性のある移動手段の確保

(3) 就労環境の充実

①生活困窮者の自立支援
②就労環境の充実

(4) 健康増進の取組の充実

①健康づくり・介護予防の取組の充実

具体的な取組内容

基本目標 1 市民一人ひとりがお互いを尊重する

(1) 互いに自分らしさを尊重した人権文化の創造

① 人権意識の醸成

人権問題を「自分ごと」として捉え、考えられるような啓発を推進します。

② 福祉教育の推進

子どもの頃から地域福祉に関心がある人を増やし、住民の福祉意識を向上させます。

③ オレンジ運動の推進

3つのアイテム（認知症サポーターのオレンジリング、あいサポーターのあいサポーターバッジ、児童虐待防止のオレンジリボン）を持つ人を増やします。

近所の人と気にかけて
あって、孤立が深まらない
雰囲気づくりが
できるといいね！

(2) 地域でつながる

① 地域でのつながりの構築

サロン活動などへの参加を通して地域で支え合う仕組みをつくります。また、住民同士、住民と団体や組織のつながりを促進します。



参考 オレンジのまちづくり



福知山市では、2019（令和元）年度から「オレンジのまちづくり（オレンジ運動）」を始めています。オレンジのまちづくりとは、これまで、高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉のそれぞれの分野で行ってきた3つの取組を、オレンジ色をシンボルカラーとして行政の縦割りを転換し、より横断的に、一体的に進めていく取組です。



「認知症サポーター」の
「オレンジリング」



「あいサポーター」の
「あいサポートバッジ」



「子ども虐待防止」の
「オレンジリボン」

また、高齢になっても、障害があっても誰もが安心して暮らすことが出来る地域づくりをめざして、2021（令和3）年度に「オレンジネットワーク会議（権利擁護ネットワーク会議／重層的支援会議）」を設置し、定期開催しています。

基本目標 2 市民一人ひとりがまちづくりの担い手となる

(1) 協働・共創のまちづくりの推進

①住民組織などへの支援

地域づくり組織や福祉推進協議会などと協働します。

(2) 多様な活動主体の協働の促進

①さまざまな支え手の連携・育成

ボランティア活動を行う人を増やします。

②福知山公立大学などとの連携

大学や高等学校との協働・連携を進めます。

③民生委員・児童委員との連携

民生委員・児童委員の認知度を高めます。また、なり手の確保に努めます。



地域の課題は地域のみんなと一緒に解決していけるといいなあ...

基本目標 3 誰一人取り残さない体制を整備する

(1) 重層的支援体制の整備

①相談体制・社会参加・地域づくり

9つの地域包括支援センターを軸に断らない相談窓口を整えます。

すぐには解決しない相談にも、つながり続ける伴走型支援を行います。

多機関でつながって支援体制を強化します（オレンジネットワーク会議）。

②人権擁護の推進

誰もが自分らしい生活を送れるようその人の権利を守ります。

みんなの幸せをみんなで支え合おう！



(2) 生活環境の充実

①防災・防犯の充実

防災体制・防犯体制を整備することで地域福祉の充実を図ります。

②持続性のある移動手段の確保

買物や受診など、日常的に移動する際に移動手段が確保できない人を減らします。

(3) 就労環境の充実

①生活困窮者の自立支援

生活に困っている人の把握に努め、自立支援を行います。

②就労環境の充実

希望する人なら誰でも就労できるように支援します。

(4) 健康増進の取組の充実

①健康づくり・介護予防の取組の充実

歳を重ねても生き生きと暮らせる人を増やします。



福知山市では、重層的支援体制を充実させます!!

福知山市の重層的支援体制のイメージ図

